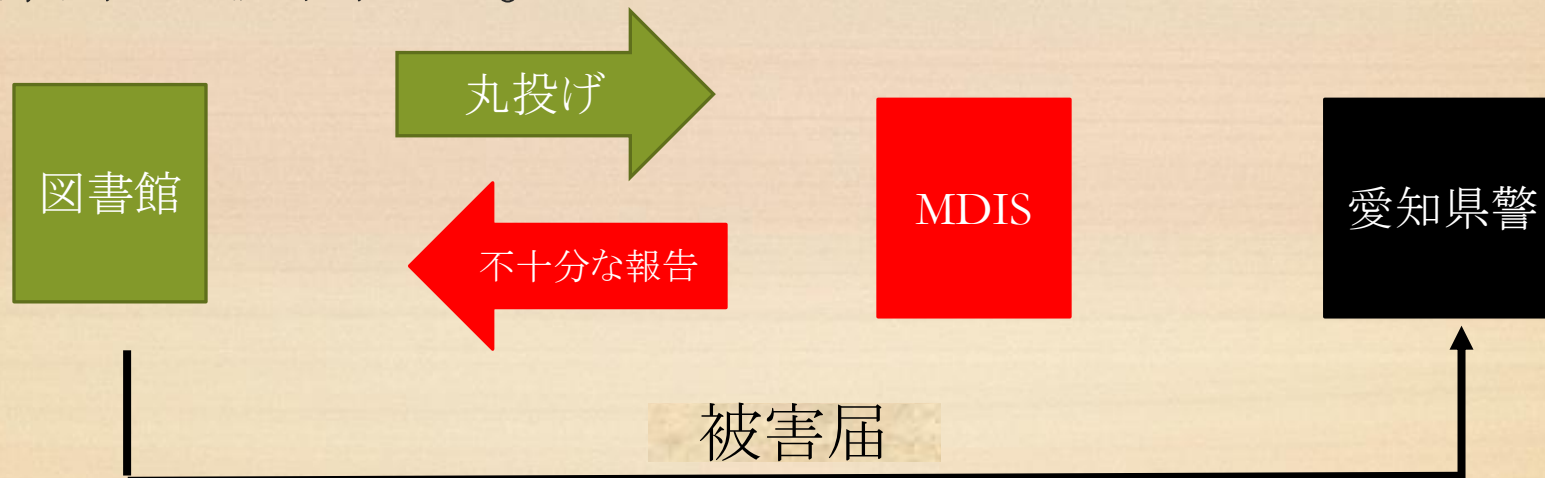


岡山中央図書館大量アクセス事件 概要

- ・岡崎市の岡山中央図書館HPに同館利用者が自前のプログラムを使って集中的に大量アクセスすることによって業務妨害を行ったとされる事件。しかしこの事件の容疑者とされる同館の利用者であった中川氏は元々サーバー攻撃などするつもりはなく最終的に不起訴となる。
- ・この事件では図書館のシステムを作った三菱インフォメーションシステムズ株式会社(MDIS)の危機管理能力の欠如、ITに対して無知でありMDISにすべて丸投げしていた図書館側の問題が浮かび上がる事件となった。

事件の真相

・中川氏のプログラムによる図書館のアクセスは一般的に見て常識的なものであり、通常これによってサーバーが落ちてしまうということはありえないものであった。しかし図書館側はITに関して無知でありすべてMDISに任せっきりだったので対応をすべて丸投げ。もちろんMDISはシステムの脆弱性に気づいてはいたはずだがそれを報告せず、頻繁にアクセスしていた中川氏によるものだと図書館に報告し結果図書館は警察に被害届を提出した。



この事件から学べる事

- ・ITに関する知識がある程度ないとすべて業者に丸投げすることとなり、今回の岡山中央図書館のようにMDISのことをすべて鵜呑みにして大きな間違いを犯してしまう可能性がある。
- ・またMDISもシステムの脆弱性に気づいていたならばそれを速やかに報告するべきであり危機管理能力が欠如している。
- ・社会に出て生活していくうえで最低限IT知識は身に着け常に危機感を持つべきである。

参考文献: 日本図書館協会 (<http://www.jla.or.jp/portals/0/html/jiyu/okazaki201103.html>)
(<http://www.nal-lib.jp/events/reikai/2010/277report.html>)